

アイデンティティ

広義には、「同一性」「個性」「国・民族・組織などある特定集団への帰属意識」「特定のある人・ものであること」などの意味で用いられる。哲学分野では、「ものがそれ自身に対して同じであって、一個のものとして存在すること」。心理学・社会学・人間学などでは、「人が時や場面を越えて一個の人格として存在し、自己を自己として確信する自我の統一を持っていること」とされている。

アウトリーチ

普段、芸術文化に触れる機会の少ない市民に対して、その生活の場（学校や福祉施設など）に出向いて行って働きかけを行うもので、日本語で標記するならば、「芸術普及活動」あるいは「教育普及活動」と言われている。

アーカイブ

一般的に書庫と訳されることが多いが、元来は公記録保管所、公文書、または公文書の保管所、履歴などを意味し、記録を保管しておく場所である。最近では「コレクション」「保存記録」「収集・保存資料」という意味合いが強い。公共性が高い映像、古文書・公文書・文化遺産など様々な媒体の資料やコンテンツを後世に残しておくこと。

アーティストインレジデンス

アーティストが一定期間滞在し、創作活動ができる施設や機関の名称。制作の支援やワークショップの実施、あるいは国際交流や文化振興など、施設によってその目的は多岐にわたる。

アートマネジメント

芸術作品を生み出すアーティストとそれを享受する観客との間を仲介し、社会の中で作品の発

信や受容がスムーズに行われるためのシステムを構築するさまざまな業務の総称。ビジネスのマネジメント業に相当することからこのように呼ばれる。美術、音楽、舞台芸術など芸術全般を対象とし、また国や地方自治体による大規模な文化政策（公共ホールの建設など）から、個人のアート・ビジネスまでを含み、該当範囲は極めて広い。

近代小田原三茶人

小田原で近代茶道を極めた、益田鈍翁（益田孝）、野崎幻庵（野崎広太）、松永耳庵（松永安左エ門）の3人のこと。

小田原城ミュージックストリート

小田原駅周辺の複数会場で、日頃、音楽活動を行っているアマチュア演奏家を中心としたストリートライブイベント。

小田原評定（おだわらひょうじょう）

（豊臣秀吉が小田原城の北条氏を攻めた際、城中で和戦の意見が対立し、いたずらに日時を送ったところから）現在では「いつになっても結論の出ない会議や相談」という意味の比喩表現として使われる。一方で、この時代には珍しくトップが一人で方針を決定するのではなく、みんなで議論する（合議）といった考え方もある。

小田原文学館（おだわらぶんがくかん）

幕末の志士で、元宮内大臣でもある田中光顕（たなかみつあき）伯爵が別邸として建てたもの。昭和12年建築の洋館は、当時の上流階級の間で流行した南欧風の造りで、庭は洋風庭園だが、要所には松を、周囲には桜や楓を植えるなど和洋折衷の様相を呈し、四季折々の美しさを堪能できる。

オーラルヒストリー

歴史研究のために関係者から直接話を聞き取り、記録としてまとめること。

クラシックモダン

古い時代の歴史的なスタイルを現代風に作り直したスタイル。

グローバル社会

世界を一つの共同体として捉える社会のこと。

コーディネート／コーディネーター

複数の人や事柄の間で調整すること。(調整する人。)

コミュニティ

共同体。同じ地域に居住し、生活、経済、教育、自治などをともにする社会。

社会的包摂（しゃかいてきほうせつ）

人々が、経済、社会及び文化的な生活に参加し、地域社会等において一般的な生活水準及び福祉を享受するために必要な機会や資源を得ること、及び生活に影響を与える意思決定に参加し、基本的人権が保証される状況。

総合計画（そうごうけいかく）

地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。本市の場合、第5次小田原市総合計画 TRYプランが平成23年4月からスタートした。

ソーシャルメディア

個人が発信する情報が不特定多数の人に対して露出され、閲覧した人は返信することができる。ユーザー同士のつながりを促進する様々な仕掛けが用意されており、互いの関係を視覚的に把握できるのが特徴。

清閑亭（せいかんてい）

黒田長成（元貴族院副議長）の別荘として、明治末期から大正初期に建てられた。雁行状平面で数奇屋風の丁寧な作りが特徴で、材質及び技法に優れている純和風建築であり、歴史的文化的価値が認められる。

地球市民フェスタ

地域で活動する国際交流団体が連携し、団体の活動や日本文化と外国文化の紹介などを行う交際交流事業。

ツイッター

個々のユーザーが「ツイート」（tweet）と称される短文を投稿し、閲覧できる通信サービス。日本では「つぶやき」という意味で定着している。

邸園文化（ていえんぶんか）

歴史や地域性を反映し、人々の心に残る景観をかたちづくってきた邸宅・庭園や歴史的建造物の文化。※神奈川県が推進する邸園文化圏再生構想より

なりわい文化

かまぼこ、ひもの、漆器、梅干、和菓子、寄木など生活から生まれ、その地域の生業として受け継がれてきた文化。

バーチャル交流

インターネットなどの通信技術を活用し、海外や国内の他都市と、リアルタイムで実際に会っているかのように交流すること。

バーチャルリアリティ

コンピュータ上に作られた世界を、実際の感覚を通して体感する技術およびその世界のこと。仮想現実感、人工現実感ともいう。

フェイスブック

インターネット上で人と人がつながる場所（コミュニティ）を提供するサービスの一つで、友人などと登録し合い、気になる情報などを交換し合う。全世界で5億人以上が利用していると言われている。

フォーラム

古代ローマの公共広場または公事を論じる場所を表すことばだが、そこから転じて、討議法（フォーラム・ディスカッション）、公開討論会などをさす。

ホスピタリティ

お互いを思いやり、手厚くもてなすこと、または歓待をすること。

松永記念館（まつながきねんかん）

戦前・戦後を通じて「電力王」と呼ばれた実業家であり、数寄茶人としても高名であった松永安左エ門（耳庵）が、昭和21年に小田原へ居住してから収集した古美術品を一般公開するために、昭和34年に財団法人を創立して自宅の敷地内に建設した施設。昭和54年に財団が解散し、その敷地と建物が小田原市に寄付された。

レセプション

受付係、応接係。劇場ホールなどでは、チケットのもぎりやクロークの対応、客席への誘導などを行う人。

ワークショップ

問題解決やトレーニングの手法、学びと創造の手法としてこの言葉が使われ、参加者が自ら体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする。